



Creative Application A12

美のメディア論1：メディアモデル - 存在と美

2025年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

受講のてびき

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます. 答えのない議論があります
- ・ 前半：本日のテーマ紹介と座学
- ・ 後半：テーマを深める談義・質問・考察
- ・ 気になることをメモをしながら受講してください

資料の見方

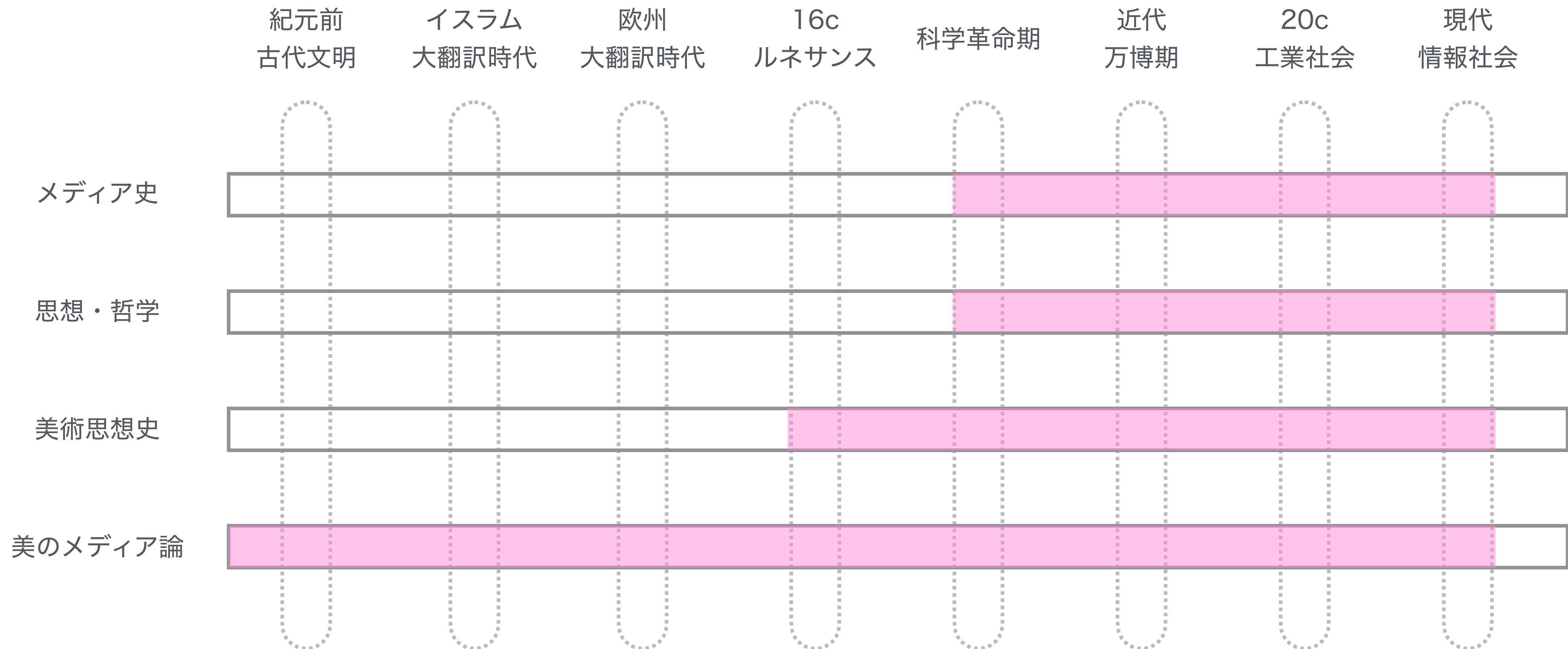
テーマに沿った項目
(座学で説明します)

左の内容に関連した
補足キーワード
(調べ物に役立ててください)

テーマ

- ▶ **自分, 他者, 社会, 思考, 存在, 美, そしてメディア**

今回の領域



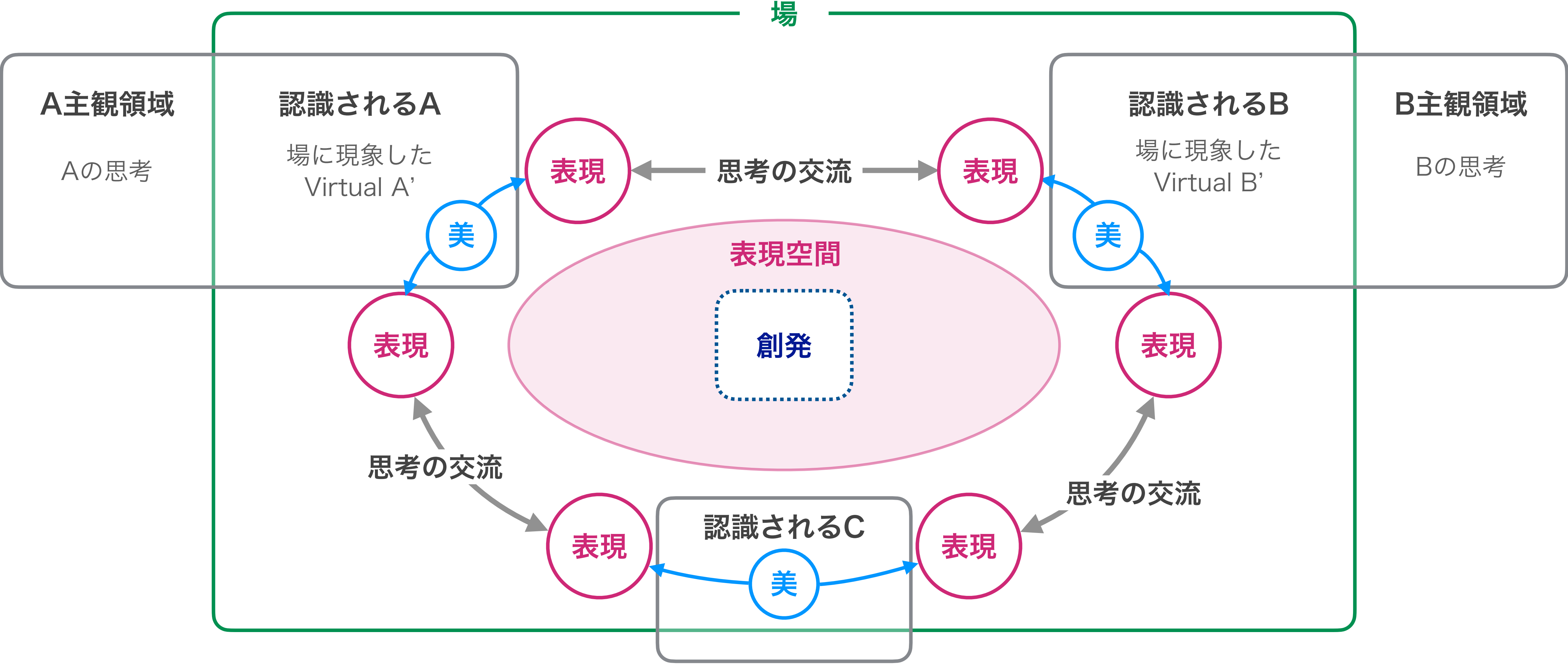
思考・美・存在・メディア

- ▶ これまでのテーマを整理して深化させる
 - ▶ 個人の思考をつなぐメディア化
 - ▶ 美の主観性と普遍性・間主観性
 - ▶ 存在・実在・リアリティ
 - ▶ 地域性と区別・合一
 - ▶ メディア・サイクル

関連キーワード

- 主客弁別と主客不可分
- 存在論と認識論, 新実在論
- もののあはれ, 幽玄
- メディア化, メディアサイクル

メディア・モデル (2025 渡邊)



モデル考察1：メディアの場と主観・存在

▶ 主観と認識される存在の並立

- ▶ 主観は場の中に形を変えて現象する
 - ▶ 異なるが実質同じ（=Virtual）
- ▶ 場は現象したVirtual同士が認識しあう集合

▶ 存在は場ごとに現れる。場限定の实在と考える

▶ 存在は場で形を変える。主観とズれるがそれも本物

関連キーワード

- カント, 批判哲学, 認識論
- ガブリエル, 新实在論
- 諸行無常, 諸法無我
- Virtual Reality, アバター

モデル考察2：美とメディア表現空間

思考の繋ぎ強化と美

- ▶ つなぎを良くする試み → 美の付与
- ▶ 美を通じた表現と間主観性による共有強化
- ▶ 熱量の高い表現空間の醸成

- ▶ 表現が頻繁に交換される表現空間は
偶発性の創発の苗床となりうる

関連キーワード

- 美の主観性・普遍性
- バウムガルテン, 美学
- もののあはれ
- 思考の結び, メディア化
- デッサン, ディセーニョ

自分, 他者, 社会, 思考, 存在, 美, そしてメディア

- ▶ メディア・モデルの提唱
 - ▶ “主観の自分”と”場の自分”の並立
 - ▶ 場で変化する存在と認識
 - ▶ 思考のつながりを強化する美への配慮
 - ▶ 主観のズレを前提とした間主観性の成立
- ▶ **主観から, 美や間主観的な交流を通じ場を醸す**
- ▶ **場のメディア表現を活発にして社会へとつなぐ**

メディアApp開発11 - それはメディアAppか

- **そのAppはメッセージを伝え得るか**

- メディア性ばかりが価値ではないが、有意義な価値の1つである
- メディア性とは別に主観的な追究することもアートの価値である
- 伝えたいメッセージがAppを通じて伝わるよう設計・工夫する

- **実践**

- そのAppは何のために存在しているのかを再度問う
- その目的を果たせたかどうか評価する
- そのAppはメディアとして何を伝え得たかを見つめる

本日の談義・考察一助

- a. メディアモデルで違和感がある点を挙げてほしい
- b. メディアモデルの具体例はあるだろうか
- c. メディアAppにメディアモデルを適用できるか
- d. 上記に限らず, 自由に質問・問題提起・雑談をしてほしい

次回予定

- ▶ 美のメディア論2：これからのメディア社会

参考文献

1. ウンベルト・エーコ著, 河島 英昭訳, 「薔薇の名前」, 東京創元社, 1990
2. マーシャル・マクルーハン著, 栗原 裕訳, 河本 仲聖訳, 「メディア論 人間の拡張の諸相」, みすず書房, 1987
3. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
4. 竹田 青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
5. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
6. 藤田 一照, 山下 良道, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
7. 永井 均, 藤田 一照, 山下 良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
8. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
9. クァンタン・メイヤスー著, 千葉雅也訳, 大橋 完太郎訳, 星野 太訳, 「有限性の後で」, 人文書院, 2016
10. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
11. 東 浩紀, 「動物化するポストモダン」, 講談社現代新書, 2001